【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第４区分
【発行日】令和6年6月10日(2024.6.10)

【公開番号】特開2023-156759(P2023-156759A)
【公開日】令和5年10月25日(2023.10.25)
【年通号数】公開公報(特許)2023-201
【出願番号】特願2022-66301(P2022-66301)
【国際特許分類】
Ｈ０２Ｋ　1/2783(2022.01)
Ｈ０２Ｋ 15/02(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０２Ｋ　1/2783
Ｈ０２Ｋ 15/02　　Ｋ

【手続補正書】
【提出日】令和6年5月31日(2024.5.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ロータ基部（２１）と、
前記ロータ基部の側面（２１ａ）の周方向に複数配置される永久磁石（２２）と
を備え、
前記永久磁石は、ハルバッハ配列磁石にて構成されてなるロータ（１２）であって、
前記永久磁石は、周方向両側部に主として磁束が径方向を向くｄ軸磁石部（２２ｄｎ，２２ｄｓ）と、周方向中央部に主として磁束が周方向を向くｑ軸磁石部（２２ｑ）とが１個の磁石材として一体的に構成されており、
周方向に隣接する前記永久磁石の同極の前記ｄ軸磁石部同士が連続して並ぶように配置されており、
前記永久磁石における前記ロータ基部の前記側面に向く部位（２２ｅ）は、先細形状とするための傾斜面（２２ｆ）を有し、
前記傾斜面は、前記ロータの径方向に対して傾斜している、
ロータ。
【請求項２】
前記永久磁石は、前記ロータ基部の前記側面に対して互いに平坦面同士で当接して配置されている、
請求項１に記載のロータ。
【請求項３】
前記永久磁石における周方向の側端面（２２ｃ）は、前記ロータの径方向に沿った平坦面をなしており、
前記傾斜面は、前記永久磁石における前記側端面（２２ｃ）と径方向の内側面（２２ａ）とにそれぞれ連続するように形成されている、
請求項１に記載のロータ。
【請求項４】
前記ｄ軸磁石部は、前記傾斜面に沿うような傾斜した着磁がなされている、
請求項１に記載のロータ。

【請求項５】
ロータ基部（２１）と、
前記ロータ基部の側面（２１ａ）の周方向に複数配置される永久磁石（２２）と
を備え、
前記永久磁石は、ハルバッハ配列磁石にて構成されてなるロータ（１２）の製造方法であって、
前記永久磁石は、周方向両側部に主として磁束が径方向を向くｄ軸磁石部（２２ｄｎ，２２ｄｓ）と、周方向中央部に主として磁束が周方向を向くｑ軸磁石部（２２ｑ）とが１個の磁石材として一体的に構成されているものを用い、
前記永久磁石を前記ロータ基部の前記側面に対して周方向の１つ置きに全周若しくは周方向の一部に亘って取り付けた後に、先に取り付けた前記永久磁石間に次の前記永久磁石を径方向から挿入して取り付けて、周方向に隣接する前記永久磁石の同極の前記ｄ軸磁石部同士が連続して並ぶように配置される、
ロータの製造方法。